

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
6月	835	498	571	8	10	1,922	1,457	58	208	137	129	563	4,474
7月	919	593	713	7	10	2,242	1,652	45	251	143	132	612	5,077
累計	3,747	2,221	2,480	65	40	8,553	6,235	209	891	596	525	2,402	19,411

📄 今月のレファレンス記録票から

分類	質問と内容
----	-------

I/B0 市川市塩焼に新場山公園がある。新場山についての資料を探している。

『ぎょうとく昔語り』(大窪絢子ほか／編著 明光企画 2000) p.10-13には、新場の山で鼠の天ぷらを揚げて狐に売ったという昔話がある。『明解行徳の歴史大事典』(鈴木和明／著 文芸社 2005)の「新場山公園」の項(p.151)には、「新場とは大新場という塩場の名称。江戸時代中期以降の塩浜跡地。(中略)新場山といわれた小高いところ。」とあり、『行徳塩焼の郷を訪ねて』(鈴木和明／著 文芸社 2014) p.133には、「大新場には遠く離れた行徳街道からも見えるような「山」が作られていました。鹹水かんすいという塩分がとても濃いどろどろの潮水を、塩田の中央に作った山の上から竹筒を繋いで、塩焼をする竈屋まで流すのです。(中略)公園の山の文字は塩田に作られていた山のことを指しています。」との記載がある。p.136には鹹水輸送装置の小山の絵が掲載されている。

I/B1 「鳥居製薬株式会社」及び「鳥居薬品株式会社(合併後の社名)」の市川工場の変遷について知りたい。

『市川市史年表』(市川市 1977) p.257に、「1945年5月4日、鳥居薬品(株)市川工場設立」とある。『市川市勢要覧昭和24年版』『市川市勢要覧附商工名鑑1952』(市川市役所)、『市川市商工名鑑』1958・1966・1971年版『市川商工名鑑』1963・1982・1988年版(市川市役所・市川商工会議所)に、会社名・住所・代表者・電話番号の記載あり。1982年版からは「鳥居薬品(株)市川研究所」となっている。また、『市川市動態図鑑 昭和32年度改訂版』(日本都市協会)、『市川市住宅詳細図1965年版』(三洋堂)、『市川市動態図鑑1966年版』(日本広飾企画研究所)、『ゼンリンの住宅地図 市川市』1970~2000(欠号有)(ゼンリン)の八幡町6丁目(現・南八幡3丁目)でも、名称の変遷を見ることができる。

I/C4 市川市で廟の字がつく小字はどこか。

『市川市字名集覧』(市川市教育委員会 1973)から、須和田2丁目びょうじょしに「廟所越」「廟所下」という小字が確認でき、地図も掲載されている。また、『広報いちかわ』(市川市役所)の昭和53年2月1日号(316号)掲載「あの街この町(市川の古地名シリーズ)その4 須和田・菅野・東菅野」に、須和田2丁目19番の東端が「廟所下」、20・32番と33番の一部が「廟所越」とある。小字との関連性は不明だが、『千葉県戦争遺跡をあるく』(国書刊行会 2004) p.24の「大正時代の国府台、国分地域」の地図には、堀之内に「中廟の坂」という場所が確認できる。

I/E7 1923年の関東大震災の直後、南行徳村で、自警団によって日本人3人が殺害されている。この事件と関連する汽船の発着所について知りたい。

南行徳村の事件については、『市川の歴史を尋ねて』(市川市教育委員会 1988) p.226-227

に、日本人が源心寺で自警団に虐殺され、後に境内に供養塔が建てられたとある。また、『いわれなく殺された人びと』（青木書店 1983）p.170 に、源心寺の碑の由来があり、「南行徳村一軒家の江戸川縁汽船発着所に上陸した 3 人の日本人が 5 日朝 2 時ころ、源心寺門内で（中略）虐殺された事件に対して建てられたもの」と事件の詳細が記述されている。

『新編・川蒸気通運丸物語』（山本鉦太郎／著 崙書房出版 2005）の p.60「通運丸航路表」（明治 43 年 4 月現在）から、「一軒家」という発着所の存在が確認できた。また、『明治前期・昭和前期東京都市地図 1 東京東部』（柏書房 1995）p.83 の地図（明治 36 年・明治 42 年測図より作成）から、現在の島尻付近に「一軒家」が確認できる。『利根川勝地案内』（伊藤省三／編輯 伊藤省三 1918）には、「汽船航路略図」（巻頭）のほか、p.2 に「一軒家寄航場」についての記述、「一軒家荷客扱所」の写真がある。『行徳郷土史事典』（鈴木和明／著 文芸社 2003）p.276-278 には、島尻地区を一軒家と呼んでいた等の記述がある。

222.0 スウェーデンの地質学者アンダーソンの著書はないか。

『世界人名辞典 西洋編 新版 増補版』（東京堂出版 1993）p.54 より、Johan Gunner Andersson とわかる。中国考古学の創始者。『竜と悪魔』（松崎寿和／訳 学生社 1971）『黄土地帯 完訳新版』（松崎寿和／訳 六興出版 1987）を紹介。

288.6 家紋と地名の関連性を調べられる資料を探している。

『姓氏・地名・家紋事典 コンパクト版』（丹羽基二／著 新人物往来社 1995）、『苗字から引く家紋の事典』（高澤等／著 東京堂出版 2011）、『都道府県別姓氏家紋大事典』東日本編・西日本編（千鹿野茂／著 柏書房 2004）などを紹介。

289.1 源義経が鞍馬山で修行をしていた年代を調べられる資料はないか。

資料によって年代の違いがある。『源義経』（角川源義・高田実／共著 講談社 2005）p.303 の源義経関連年表によると、永萬元（1165）年 7 歳「七歳まで山科に育ち、のち鞍馬山に入るという（『義経記』）」、承安 4（1174）年 16 歳「三月三日、鞍馬を出て奥州に下る（『平治物語』）」とある。『義経記』（島津久基／校訂 岩波書店 1939）には「牛若鞍馬入の事」p.16-17、「遮那王殿鞍馬出の事」p.25-28、『平治物語 現代語訳付き』（日下力／訳注 KADOKAWA 2016）には「鞍馬寺の牛若」「鞍馬出奔、下総へ」p.434-441 という章がある。

また、『源義経』（五味文彦／著 岩波書店 2004）p.202 の源義経関連略年表によると「1169（嘉応元）年頃 義経、鞍馬山に登り、童としての教育を受ける」、「1174（承安四）年頃 義経、鞍馬寺を出て、藤原秀衡を頼って奥州へ」とある。この資料には、『尊卑文脈』『吾妻鏡』『義経記』『平治物語』などを引用しながら、義経の少年期を追った記載がある。

335.1 SDGs と「^{さんぼう}三方よし」の関係性がわかるものはないか。

「三方よし」については、国立国会図書館レファレンス協同データベースに事例があり、近江商人の家訓「売り手よし」「買い手よし」「世間（に）よし」を指すことがわかる。

『SDGs の基礎』（白田範史／編 先端教育機構事業構想大学院大学出版部 2018）p.ii、『Q&A SDGs 経営』（笹谷秀光／著 日本経済新聞出版社 2019）p.5、p.109-111、『SDGs の本質』（御友重希ほか／編著 中央経済社 2020）p.9 などに、SDGs と三方よしの関係について記載がある。

366.2 キャリア理論で、クランボルトの「計画された偶発性（planned happenstance）」とジェラットの「積極的不確実性（positive uncertainty）」について知りたい。

『カウンセリング心理学事典』（誠信書房 2008）p.508、p.519 に二人の理論の概略がある。『キャリアカウンセリング入門』（渡辺三枝子・E.L.ハー／著 ナカニシヤ出版 2001）p.72-73 に「積極的不確実性」、『キャリアカウンセリング』（宮城まり子／著 駿河台出版社 2002）p.79-81、『キャリアの心理学 新版』（渡辺三枝子／編著）ナカニシヤ出版 2007）p.87-88 に「計画された偶発性」の項がある。